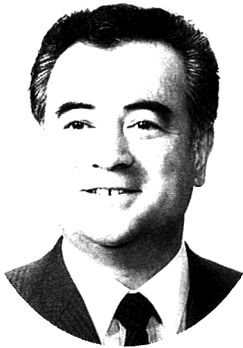


## 年頭のごあいさつ



茨城県知事  
茨城県統計協会総裁

橋本 昌

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素から統計に対し深い御理解を賜りますとともに、各種統計調査に格別の御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、長引く景気の低迷や金融機関の相次ぐ経営破綻など、多事多難な1年でありました。本県におきましても、動燃の火災爆発事故など極めて遺憾な出来事もありましたが、一方で、鹿行及び県南の生涯学習センターや天心五浦美術館のオープン、3歳未満乳幼児の医療費の無料化、高速道路や港湾といった本県の発展を支える事業の推進など、着実に県政の進展をみることが出来ました。

21世紀まであと3年であります。我が国は今、大きな変革の時代を迎え、国においては六つの改革が進められております。本県におきましても、郷土茨城を輝かしい21世紀へと発展させていくため、「愛されるいばらき」づくりに全力で取り組んでまいります。

このため、北関東自動車道等の3本の高速道路や百里飛行場の民間共有化、常陸那珂港や常磐新線の建設など、交流の時代に向けての基盤整備や、産業の振興を図り「かがやく未来」を目指してまいります。

また、本格的な少子・高齢社会に対応する福祉や医療の充実はもちろん、生活環境施設の整備、学校教育や芸術・文化の振興にも力を注ぎ、「ものの豊かさ」と「こころの豊かさ」をあわせ持った「新しいゆたかさ」を実感することができる社会づくりに向けて積極的に取り組んでまいります。

同時に、極めて厳しい財政状況にありますので、全力で行財政改革を推進し、変革の時代に対応できる簡素で効率的な行財政システムの確立や財政の健全化を図ってまいります。

さらに、NHK大河ドラマ「徳川慶喜」の放送やJR6社と共同のデスティネーションキャンペーン、「ゆうあいピック」の開催を通じて、本県のイメージアップにも努めるなど、県民の皆さん誰もが、「茨城県に生まれてよかった、住んでよかった」と感じることができる生き生きとした明るく住みやすい県づくりを進め、21世紀が茨城の時代となるよう全力を尽くしてまいります。

これらの県政を推進していくためには、適確な現状把握と将来の進路を示す統計の利活用を進めることが重要であります。今後とも、県といたしましては、統計調査環境の改善と統計利用の拡大を推進し、豊かな地域社会づくりに役立つ統計情報の提供に努めてまいりたいと考えております。

統計調査の第一線で活躍される皆様方におかれましても、統計に携わる意義と社会的使命を十分に御認識いただき、本県の統計が県民から信頼される統計として、更に充実、発展いたしますよう、なお一層のご尽力をお願い申し上げます。

皆様方の本年のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

# 日本の第3次ベビーブームの可能性

総務庁統計局統計調査部経済統計課

伊原 一

## 日本の将来推計人口

日本の全国の将来人口は、厚生省社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成9年1月推計）」として出生数の仮定の違いから高位推計、中位推計、低位推計がそれぞれ公表されており、これをもとに日本の第三次ベビーブームの可能性について検証を行った。また、第三次ベビーブームの例としてスウェーデンの中央統計局のホームページ (<http://www.scb.se>) にアクセスし、スウェーデンの人口ピラミッドを調べてみた。

## 第三次ベビーブームの可能性

日本の人口の出生数の推移を見てみると、戦後の1947年から1949年に第一次ベビーブームが起き、その24年後の1971年から1974年には第二次ベビーブームが起きている。第二次ベビーブームは、第一次ベビーブームの世代が出生率の高い20歳以上25歳未満の年齢階級に達したことにより起きたもので、今後、同様の現象が第三次ベビーブームとして起きる可能性は高く、時期的には日本の第三次ベビーブームは晩婚化などにより、第二次ベビーブーム世代が30歳以上35歳未満の年齢階級に達し、高位推計において0歳以上5歳未満人口が

ピークを迎える2007年頃になるのではないかと考えられる。

## スウェーデンの第三次ベビーブーム

第三次ベビーブームが起きた国の例としてスウェーデンの人口を見てみると、1996年の5歳階級ピラミッドでは5歳以上10歳未満人口が10歳以上15歳未満人口に比べてかなり多くなっており、これが人口の三番目のピークとなっている。1996年のスウェーデンの人口の年齢構成は50歳以上55歳未満、30歳以上35歳未満、5歳以上10歳未満がそれぞれピークとなっていて、これらがそれぞれ日本の人口の第一次ベビーブーム、第二次ベビーブーム、第三次ベビーブームにあたると思われることから、スウェーデンでは第三次ベビーブームは1990年前後にあったとみることができる。

## 日本の第三次ベビーブーム

スウェーデンのベビーブームが1990年前後に起きたのに比べて日本の5歳階級人口ピラミッドを見てみると、1995年時点の人口の年齢構成は、20歳以上25歳未満の第二次ベビーブーム世代のピークから若い世代にいくほど人口が少なくなっており、第三次ベビーブームは1995年の時点ではまだ

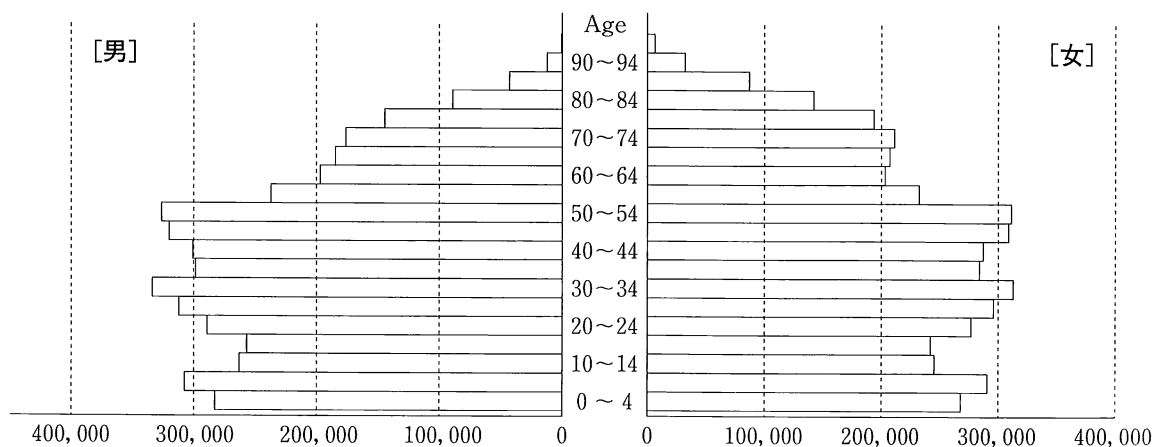


図1 スウェーデンの人口ピラミッド (1996年12月)

起きていないことがわかる。日本の第三次ベビーブームがスウェーデンに比べて遅れていると考えられる理由としては、第一次ベビーブームが日本では戦後の1947年以降に始まって数年遅れたこと、また、スウェーデンでは第一次ベビーブームと第二次ベビーブームのピーク間の期間が20年程度であったのに対して日本では晩婚化により25年程度となっていてさらに数年遅れたこと、同様に、

第二次ベビーブームと第三次ベビーブームのピーク間の期間が晩婚化によってスウェーデンよりも長く、さらに数年遅れると考えられることから、日本の第三次ベビーブームはスウェーデンに比べて10年から15年程度遅れて起きると考えられる。従って、スウェーデンでは1990年前後に起きた第三次ベビーブームは日本では2000年から2005年前後になる可能性が高いと考えられる。

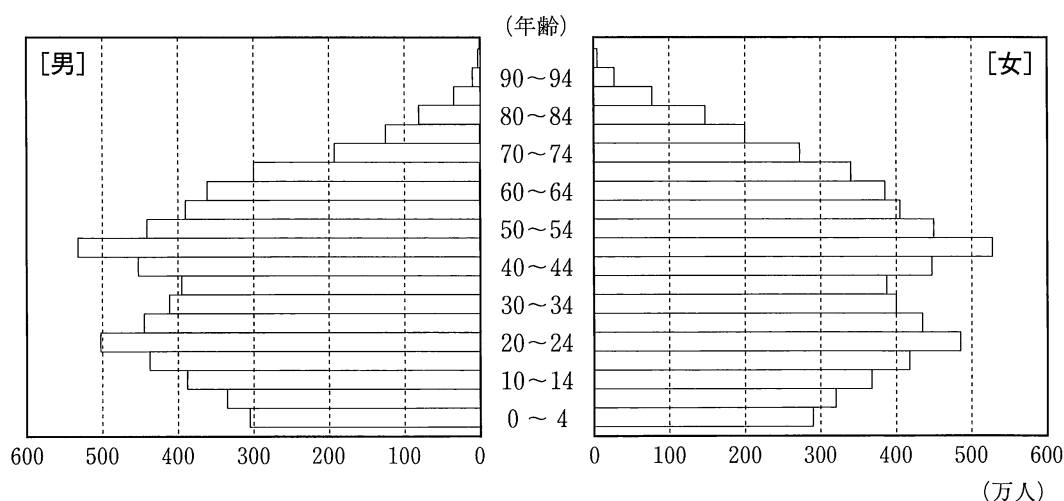


図2 日本の人口ピラミッド (平成7年国勢調査)

## 出生数の将来見通し

1960年からの日本の0歳以上5歳未満人口を見てみると、1974年に第二次ベビーブームによって約1000万人のピークとなっており、その割合は25歳以上30歳未満の親の世代の約1100万人に対して約90%程度の数を示していることがわかる。これに比べて将来推計人口では、高位推計でも2007年のピーク時で親の世代の約1000万人に対して0歳以上5歳未満人口は700万人程度で約70%しか見込んでおらず、かなり低い出生数を仮定していることがわかる。仮に第三次ベビーブームによって2005年頃の0歳以上5歳未満人口が30歳以上35歳未満の親の世代の人口約1000万人の90%にまで達した場合、その数は中位推計の600万人や高位推

計の700万人を大きく上まわって900万人となり、これが数年続いた場合、人口構成に与える影響はかなり大きなものとなる可能性がある。

日本で第三次ベビーブームが起きた場合、超高齢化社会の根拠となっている高い高齢化比率はやや緩和されることが期待されるものの、今後、第一次ベビーブーム世代が高齢に達していくため、引き続き高齢化への対策が必要であるのは言うまでもない。一方で、現在の低い出生数を前提に各種の政策的な長期計画等が策定された場合、保育施設や教育施設が不足してさらに出生数を抑制する方向に働くことになりかねないため、将来的な育児環境の整備には十分な配慮が必要である。

※ 統計情報研究開発センター「エストレーラ11月号」より

# いばらきの経済

## 水産業 ～多獲性魚依存の海面漁業

### ◆ 恵まれた好漁場

本県海域は、沖合で親潮と黒潮が交わるため、まいわし、さば、さんま、かつお、しらす、おきあみ等の多種多様な魚類の好漁場となっています。さらに沿岸域にある天然礁では、すずき、ひらめ、かれい等根付魚の漁場となっています。また、海岸部は、那珂川を境に北部は岩礁域となり、あわび、わかめ等の漁場となっており、一方、南部の砂浜域には、鹿島灘はまぐり、こだまがい、ほっきがい等の二枚貝の漁場となっています。このように好漁場に恵まれた本県においては、多種多様な漁業が営まれています。

県内の主要な漁業基地は、北茨城（平潟港、大津港）、日立（川尻港、会瀬港、河原子港、久慈港）、那珂湊（磯崎港、平磯港、那珂湊港）、大洗港、鹿島灘、波崎港があげられます。

地区別の漁業生産量をみると、漁場が北部太平洋に広がる沖合漁業を主とする北茨城、波崎の漁獲量が大きく、その他の地区は沿岸漁業を主としているため漁獲量は少なくなっています。

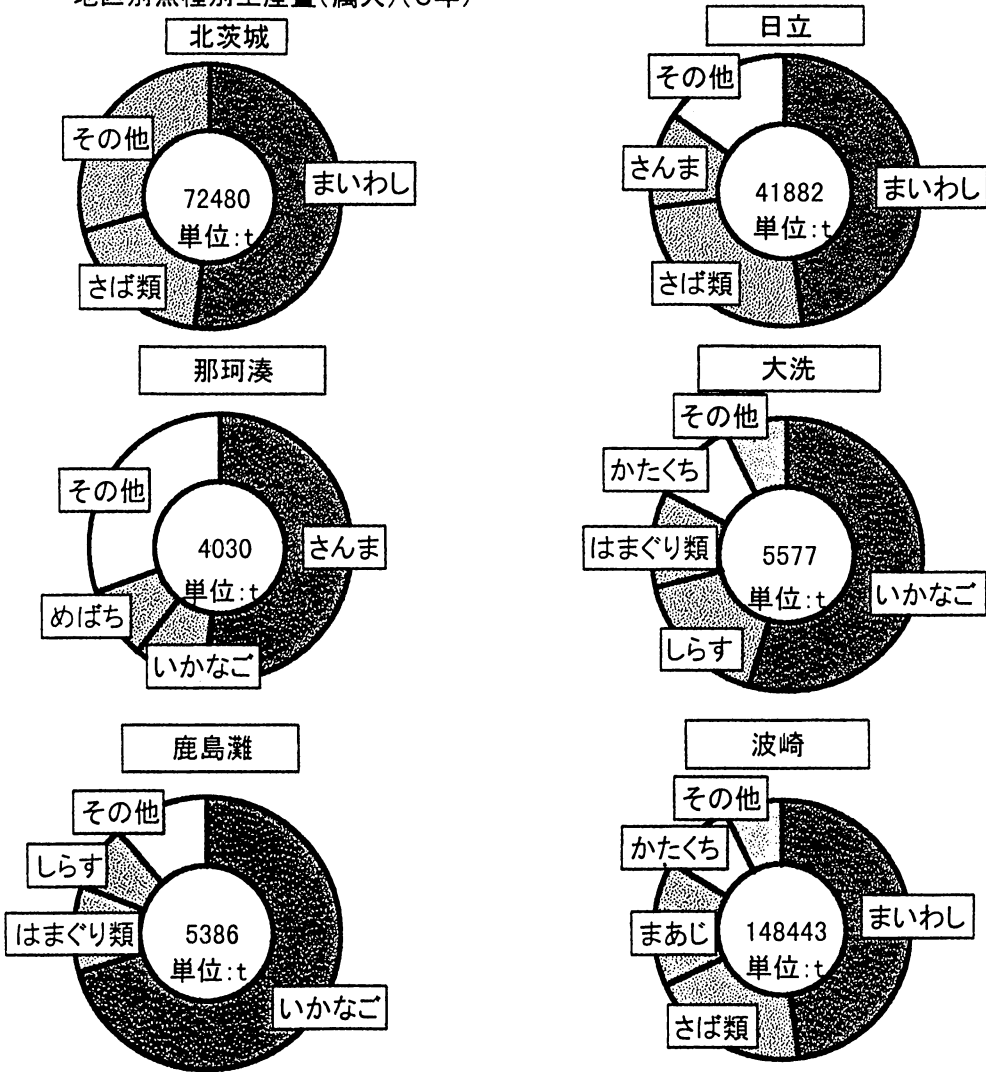
魚種別にみても、北茨城、日立、波崎では、まいわし・さば類が大部分を占め、那珂湊では、さんまが過半数を占めています。大洗、鹿島灘では、いかなご、しらす、はまぐり類が中心となっています。

このように、本県の海面漁業は、まいわし、さば、さんま等の単価の安い魚種を大量に水揚げするという特徴といえるでしょう。

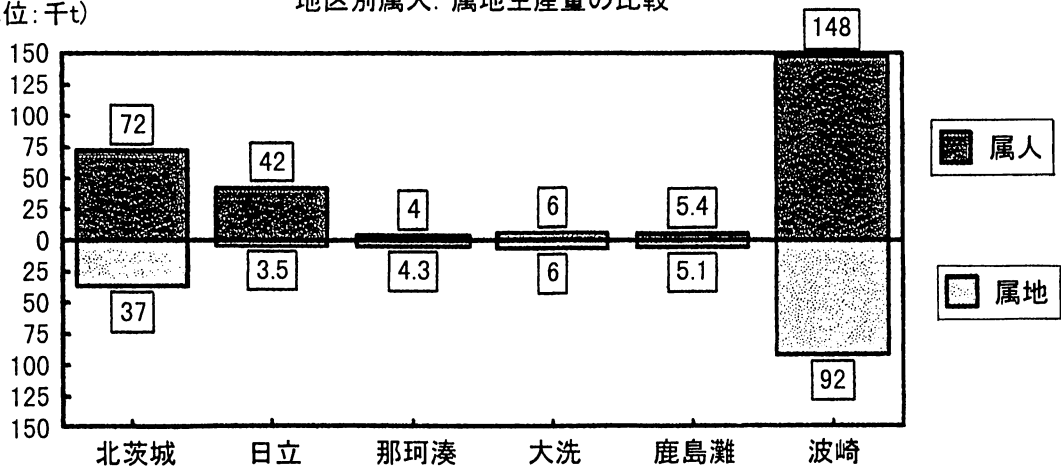
### ◆ 獲った魚は他県へ水揚げ

地区別の属人・属地生産量を比較してみると、ほとんどの地域で、属人水揚げ量に対し、属地水揚げ量が少なくなっています。これは、沿岸漁業の多くは地元漁港に水揚げされるものの、北茨城、波崎などで行われている大中型まき網等は漁場の位置が本県沖ばかりでなく、広範囲に及ぶことや、価格等によっては他県の漁港に水揚げされることが原因となっています。また、那珂湊は他県のかつお船を積極的に廻船誘致しているため、属地生産量が属人を上回っています。

地区別魚種別生産量(属人)(6年)



(単位:千t) 地区別属人、属地生産量の比較



資料: 茨城県「茨城の水産(6年)」

※県統計課「いばらきの経済」より

# いま，変革の社会が求める統計を目指して

～第39回茨城県統計大会開催～

茨城県統計大会が，12月2日(火)水戸市市民会館において，統計調査の功労者，グラフコンクールの入賞者約960名を集め，盛大に開催されました。

この大会は，統計関係者の一層の自覚と認識を深め，統計事業の発展とともに県民に対する統計思想の普及を図ることを目的として，昭和34年以来毎年開催され，今年は39回目となります。

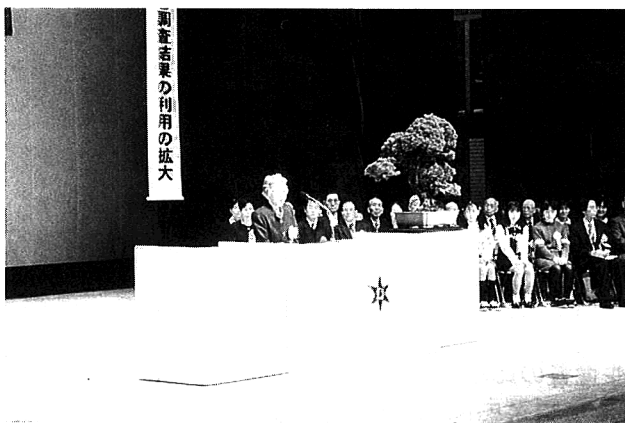
県内には平成9年10月1日現在で約7,430人の調査員が登録されていますが，その代表として田部井絹江さん(水戸市統計協会女性懇話会会長)の開会の言葉で式典が始まりました。

続いて，人見実徳副知事が主催者挨拶を行いました。副知事は，プライバシー問題や価値観の多様化で調査環境が大変難しくなっている中での統計調査員の労をねぎらい，「統計調査は適切な行

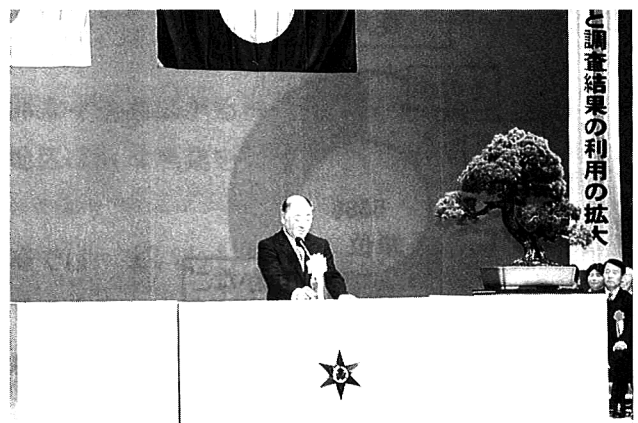
政展開の基礎。今年は統計法が施行されてから50年の節目にあたる。近年の統計調査を取り巻く環境は年々厳しさを増し，調査員の皆様は大変な苦労があると思うが，なお一層のご尽力をお願いしたい。」とあいさつしました。

続いての表彰式では，統計調査に長年従事され功績の顕著な方々に対する県知事表彰，統計功労者に対する県統計協会総裁表彰と各省庁大臣の表彰伝達のほか，第48回統計グラフ全国コンクール入賞者の表彰伝達等が行われ，それぞれの代表の方々に賞状が授与されました。

次に，来賓の大戸隆信さん(総務庁統計局統計



▲開会宣言



▲主催者あいさつ



▲統計功労者表彰



▲統計グラフコンクール入賞者表彰

基準部長)を初め、香取衛さん(茨城県議会総務企画委員会委員長)、渡辺龍一さん(茨城県市長会副会長/常陸太田市市長)からお祝いの言葉が贈られ、続いて受賞者を代表して、澤島悌子さん(日立市統計調査員)から決意表明が述べられました。

最後に関啓子さん(総和町統計調査員)の朗読による「変革の社会が求める統計調査を推進する」などを内容とした大会宣言が満場の拍手で採択され、湯崎平衛門さん(牛堀町統計調査員協議

会会長)の閉会の言葉で式典を終了しました。

また、調査員も大会に参加するという趣旨から、水戸市統計協会女性懇話会の方々にご協力をいただき、受付脇のロビーにおいて生花、パッチワーク、木目込人形などの展示を行ったり、抹茶のサービスで好評を博しました。

大会の開催にあたりご協力をいただきました関係者の皆様、並びに大会に出席されました皆様に対しまして、厚くお礼申し上げます。

## 受賞者

### 〈統計功労者表彰〉

県知事表彰	106名
〃	3団体
県統計協会総裁表彰	135名
各省庁大臣表彰	28名
〃	36団体
全統連会長表彰	3名

### 〈統計グラフ表彰〉

県知事賞	9人
県議会議長賞	14人
県教育委員会教育長賞	19人
茨城新聞社長賞	10人
県統計協会総裁賞	44人
県統計協会会長賞	97人
優秀校賞	15校
奨励校賞	30校
統計グラフ指導者表彰	10人
全国コンクール入賞	29人

## 大会宣言

21世紀を目前にして、私達を取り巻く社会・経済情勢は、国際化、高度情報化、少子・高齢化の進展、価値観の多様化等が進むなど大きな変化が生じており、新たな統計行政の対応が求められています。

このような変化の激しい時代にあって、各種施策を推進するうえで、統計の果たす役割は一層重要性を増してきています。

ここに第39回茨城県統計大会を開催するに当たり、統計調査の一層の充実を図るため、決意を新たに次のとおり宣言します。

1. 我々統計関係者は、統計の正確性や信頼性を失うことなく、県民の理解と協力のもとに、い

ま、変革の社会が求める統計調査を推進します。

2. 年々厳しさを増す調査環境に対応するため、私たち統計調査員は、資質の向上と安全確保に努めます。県、市町村においては、調査の必要性や調査方法について、広報誌やマスメディアを活用したタイムリーな周知や統計に対する意識啓発など多角的な調査環境の改善を図ります。
3. 調査結果をより早期に公表するとともに、できるだけ多くのメディアを活用して分かり易い統計情報の提供に努め、その利活用の促進を図ります。

平成9年12月2日

第39回茨城県統計大会